

【バイオマスエネルギー】

「再生可能エネルギー」をエネルギーの視点から見ると「風力」や「太陽光」は装置型で設置すると定格出力が得られるようになっています。エネルギー生産の視点から見ると導入方法や採算性確保は、比較的容易に計算できるエネルギーです。

私が進めている農村でのバイオマスエネルギーは風力や太陽光とは、目的や方法が大きく異なります。



◀ 北海道鹿追町で建設された大型バイオガス施設で、3000頭の牛のふん尿をあつめている。



◀ 地域の中小企業で建設した小型バイオガス施設。1997年より立ち上げた地域のバイオガス研究組織の構成会社が建設した。

▼ 福岡県糸島市でのバイオマスセミナー開催。220名が参加し、地域エネルギーで農業支援とブランド化に結びつけるセミナーを開催。



バイオガスからは始まる農村活性化「バイオガス産業社会」

酪農地域では家畜の糞尿処理に多くの労力・負担がかかっています。また、コストも乳牛の糞尿を処理するために3万～10万/頭・年の負担が発生しています。牛が100頭いれば多い人で1000万円の処理費がかかります。高齢化・後継者不足の農村では重い負担です。

私が取り組んでいる一例をご紹介します。

5000頭の乳牛の糞をあつめて処理すると、労力が大幅に軽減されます。バイオガスから発電・売電し収入を得て、その残渣である消化液を有機肥料として散布すると化学肥料購入代金が削減できます。また、有機的農業により農産物のステータスも向上します。発電時に発生する熱を利用してハウス栽培をおこない、高齢者や障害者の仕事をつくります。二酸化炭素を使わない、熱エネルギーコストが削減されたエコなハウス農業が可能です。

バイオマスのメリットと地域創生

①コスト削減

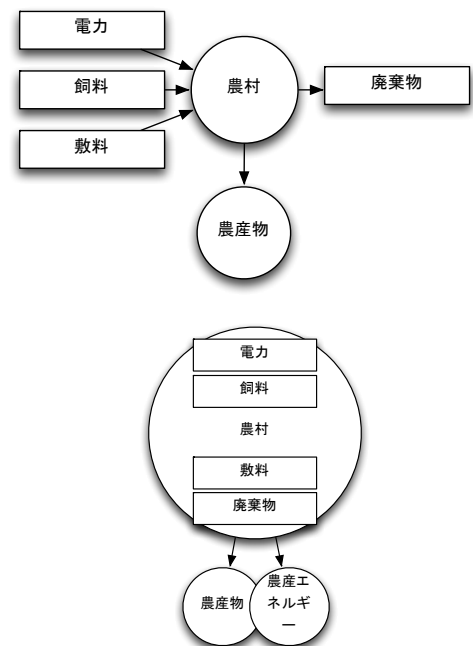
- ・家畜ふん尿処理コストの低減
- ・化学肥料購入費削減

②地域の収入増加

- ・増頭効果と牛乳政策拡大
- ・牧草、コーンの増収
- ・売電収入

③雇用の維持

- ・後継者や若者新規就農の拡大
- ・小規模酪農家の維持
- ・余剰熱によるハウス栽培で高齢者や母子家庭のお母さんの仕事 確保



従来はコストをかけてきた糞尿から今まで外部に依存している電力や飼料、敷料を自給することにより、農産物と同様に農産エネルギーを6次産業製品として提供することができます。

消費者は国内農産物を購入することによって農村を支援してきましたが、今後はコンセントから電力を購入することにより農村を支援することができます。